

# 市内をめぐると バスで行く小旅行。

「宇城市をもっと知りたい!」という思いから、広報担当者がバスに乗ってみました。市内を巡回するバスの車窓から見えた景色や、降車して訪ねた場所をご紹介します。

(文章は簡条書きで統一しています)



そぞろ歩きが似合う  
海辺の街を歩く (取材日: 4月12日)

**7時40分** 九州産交バス松橋営業所に到着。営業所職員によると、この営業所では熊本市や八代行きの利用者が多く、八代行きは学生、砥用や三角行きは高齢者が多いとのこと。  
**7時50分** 「松橋営業所」発。乗車客は4人。「松橋栄町」を通過すると、不知火町の「十五社」では建設中の九州新幹線の高架橋が国道266号を横断している。

**8時07分** 「桂原」通過。左には高潮対策の堤防、対岸には不知火干拓が見える。永尾神社を左に見ながらしばらく行くと、バスは松合の本町通り商店街へ。バス1台がやっと通る道幅を徐行運転で通過し、「救の浦」へ。  
**8時54分** 三角町の「塩屋」通過。JR三角線の列車が停車する波多浦駅では、メディアカルカレッジ青照館に通うらしい学生が続々と下車。

**9時02分** 「三角営業所」着。営業所職員によると、この営業所は三角町内のほか、天草方面に向かう利用者が多いとのこと。ここからバスを乗り換える。発車まで時間があるので、駅前の物産館、ラ・ガールに行くことに。館内魚屋の水槽ではイカ・カレイが元気に泳ぐ。天草行きを待つ女性が「昔は三角港も八代行きで船でにぎわっていて、船の沈むごつ荷物の積んでありました」と昔話をしてくれた。  
**10時00分** 「三角営業所」発。約10分で「三角西港前」着。西



【写真1】「救の浦」の船溜  
【写真2】浦島屋には喫茶室があり休憩に最適  
【写真3】西港の石畳に腰掛け釣りをする男性  
【写真4】石積水路  
【写真5】土蔵白壁  
【写真6】松合の道路に埋められた標識。「止まれ」が熊本弁で書かれており、とってもユーモラス  
【写真7】汐見坂

港は、明治三大築港の一つとして建設され、石積みふ頭が築港当時のまま残るのは全国でここだけ。観光ボランティアの人に築港の歴史や建造物の話をしてもらいながら1時間ほど散策。浦島屋で休憩した。  
**12時33分** 「三角西港前」発。三角営業所を経由し14時02分、不知火町の「松合」で下車。古くから醸造や交易が盛んに行われた港町、松合。土蔵造りの建物がしのばれる。漁に出るために海の様子を確認したという汐見坂からは、その名のとおり不知火海が見えた。  
**15時39分** 「不知火温泉センター前」下車。この温泉は35・5度の潮湯で、ジャグジー、うたせ湯のほか、露天風呂やサウナもあり、湯上がりはさっぱりつるつる肌になると評判。隣接した物産館には、デコボンゼリー、あさり、ミニトマト、サラタマ、デコボンのポン酢、パール柑が並び、平日にもかかわらず客でにぎわっていた。  
**17時07分** 「不知火温泉センター前」発。17時21分「松橋営業所」着。

## もっと知りたいバスのこと

### 市内を走る路線バス

九州産業交通株式会社と熊本バス株式会社の2社が市内を運行しています。

◎九州産業交通株式会社

本社は熊本市桜町3番10号。水色系統の車体色が特徴。

◎熊本バス株式会社

本社は熊本市画図町重富600。オレンジ色系統の車体色が特徴。

### 補助金のこと

近年路線バスの利用率は低迷し、赤字となっています。しかし、路線バスがなくなると困るので、路線維持のため、赤字分を市が補助金として、バス会社に払っています。

平成17年度(平成16年10月1日~17年9月30日分)バス補助金は、九州産業交通(親会社)と産交バス(子会社)へ5943万3千円で、うち1836万円が県の補助金です。利用率の増減により、補助金の額も毎年増減します。もっとも路線バスを利用したいものです。